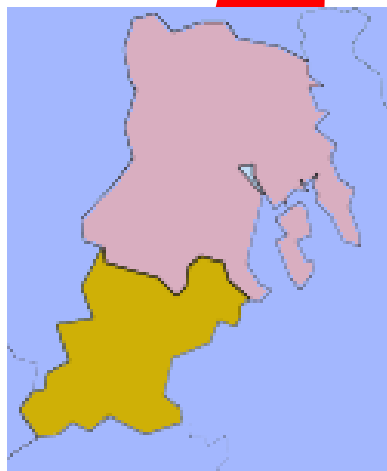


気仙沼市立本吉病院の 取り組み



震災直後と現在



病院正面玄関





病院駐車場



本吉地区の状況

- 震災前

- 平成23年に気仙沼市と合併。人口11,000人、高齢化率30%
- 医療機関は当病院のみ（常勤医師2名、病床数38床）
- 消化器内科の外来と入院医療を中心に活動
- 訪問診療はほとんど実施なし
- 他の専門科の医療が必要なときは、車で30分以上かけて、気仙沼市街地等遠方の医療機関受診が必要

- 震災後

- 震災で公共交通機関が寸断
- 11,000人のうち1,300人が仮設住宅で生活

震災後の経過

- 津波により病院1階部分が全損
- 震災時の入院患者は全員内陸の病院に転院
- 被災直後から2階病棟を救護所として活用
- 震災後2名の常勤医師の退職。一時病院の存続危機
- 平成23年10月 新院長就任に伴い保険診療の再開と在宅診療開始
- 平成24年8月 1階の改修完了
- 平成25年3月 医療機器の再整備の完了
- 平成25年3月11日 入院再開

被災地に共通する医療の課題

- まだ復興は進んでいない
- 圧倒的な医療・保健・福祉スタッフの不足
- 人材不足にもかかわらず、専門分化したままの医療提供体制（患者が必要に応じ複数の医療機関を受診する）
- 精神的な問題を抱える住民の増加に伴う医療需要の増大
- 生活環境の変化に伴う疾病の変化への対応

被災地で求められる医療

- ワンストップで多くの疾患に対応できる医療
- 生活環境に即した、慢性期疾患の適切な管理
- 精神的ストレスと身体疾患を同時にみる医療
- 地元の資源を最大限に活かす医療
- 今後長期にわたり衰退しない医療

本吉病院の取り組み 1

提供側が規定する医療から、受け手が求める医療への変革

1. 地域で起こる全ての医療問題の窓口になる
2. 需要に対応するために、病院単独の活動から地域の総合力を活かす活動へ

本吉病院の取り組み 2

入院医療から在宅医療へ

1. 震災後全国からの支援によって、本吉地区に在宅医療が導入された
2. 入院機能が消失したため、高齢者を地域でみていくために在宅医療を実践する必要性が生じた
3. 健康問題に関しては医療機関にお任せの風土がある地域で、在宅医療を通じて、自分たちの生き方を自分たちで考えるきっかけをつくる

本吉病院の取り組み 3

次世代の医療を担う人材の育成（医療の継続を活動の柱の一つにする）

1. 学生、研修医の受け入れ

平成24年度 医学生 18名

 初期臨床研修医 11名

 後期研修医 5名

2. 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門プログラム認定

被災地域の多くの医療機関と地元大学が
協働で総合医を育てるプログラム

本吉病院の取り組み 4

- 地域多職種連携活動（毎週水曜日夕方実施）
 - － ケアマネージャー等介護スタッフとの症例検討
 - － 訪問歯科との症例検討
 - － 調剤薬局との情報共有と在宅患者訪問薬剤管理指導導入に向けた検討会（訪問はH24.9月から開始）
 - － 医療・介護勉強会
- 在宅医療先進地域への研修
 - － 桜町アーバンクリニック 訪問看護師研修
2名 × 3日 2月実施
 - － 山梨市立牧丘病院 病院スタッフ研修
11名 × 3日 2～3月実施
 - － 桜町アーバンクリニック 本吉地区介護・保健スタッフ研修
13名 × 2日 2月実施

本吉病院の取り組み 5

- 在宅医療先進地域からのテレビ会議システムを活用した遠隔講演
 - 第一回 在宅医療を地域に根付かせるために
 - 第二回「訪問看護師だからできるメディカルケア～褥瘡編～」
 - 第三回「認知症の患者さんを地域で支える part1 」
 - 第四回「認知症の患者さんを地域で支える part2」
 - 第五回「在宅医療における薬剤師の役割」「地域医療における介護と医療のよいチームワークづくり」

本吉病院の取り組み 6

- 在宅医療を広げるためのシンポジウム
 - 第1回目 1月26日 「本吉病院が地域で目指す在宅医療と看取り」～地域で、在宅で、大切な人をどう看取るのか～
 - 第2回目 3月24日「ええ人生だった！-ここ本吉で生き、このわが家でしあわせに逝く」(中村伸一先生の講演＋シンポジウム)
- タブレット端末を活用して、在宅介護・医療の情報共有
 - 地域医療連携支援システムEIR(エイル)を導入

介護スタッフとの情報交換



在宅歯科との連携



薬剤師との情報交換



住民との意見交換会



特別支援学校の
医療相談事業

本吉地区の多職種連携、在宅医療の現状

- 歯科医師、薬剤師、介護施設・保健スタッフとの顔の見える関係が構築でした
- 多職種間で速やかな情報交換が可能となり、各専門分野のスタッフが機能分担しながら在宅に関われるようになった
- 地域の中核病院との連携が強化され、急性期医療と慢性期・終末期在宅医療の役割分担が進んだ
- 地域住民の在宅医療への理解が進み、ターミナルケアを含めて、在宅医療導入件数が増加した

平成23年10月の在宅医療開始時点から1年経過時点の状況

訪問患者数 64名

看取り件数 27件(本吉地区の在宅看取り率約25%)

今後の課題

- 気仙沼市全域での多職種連携による在宅医療の充実
- 在宅患者を支援する入院機能の充実
- 在宅リハビリテーションの増加に伴うスタッフの確保
- 訪問医療・看護のスキルアップ